

令和4年度の連携排砂は、排砂実施に至る出洪水が発生しなかったため、未実施となった。連携排砂に至らなかった要因に、雨の降り方の変化等が考えられ、『**新たな気づき**』があった。

これらについて、『**より自然に近いかたちでの連携排砂**』を目指すべく、調整・検討等していきたい旨を前回評価委員会・協議会において提示しており、現在の状況等についてまとめた。

① 連携排砂未実施等における目標排砂量の設定について

- 目標排砂量は約35万 m^3 (想定変動範囲:約27万 m^3 ～約43万 m^3)とする。
目標排砂量は出し平ダム貯水池の堆砂形状を基に排砂シミュレーションを行い設定する。(次項参照)

⇒ **令和5年度排砂計画に反映**

② 雨の降り方の変化を踏まえた運用の検討等について

(1) 『**連携排砂期間の考え方**』『**実施基準流量の考え方**』『**中止基準流量の考え方**』について

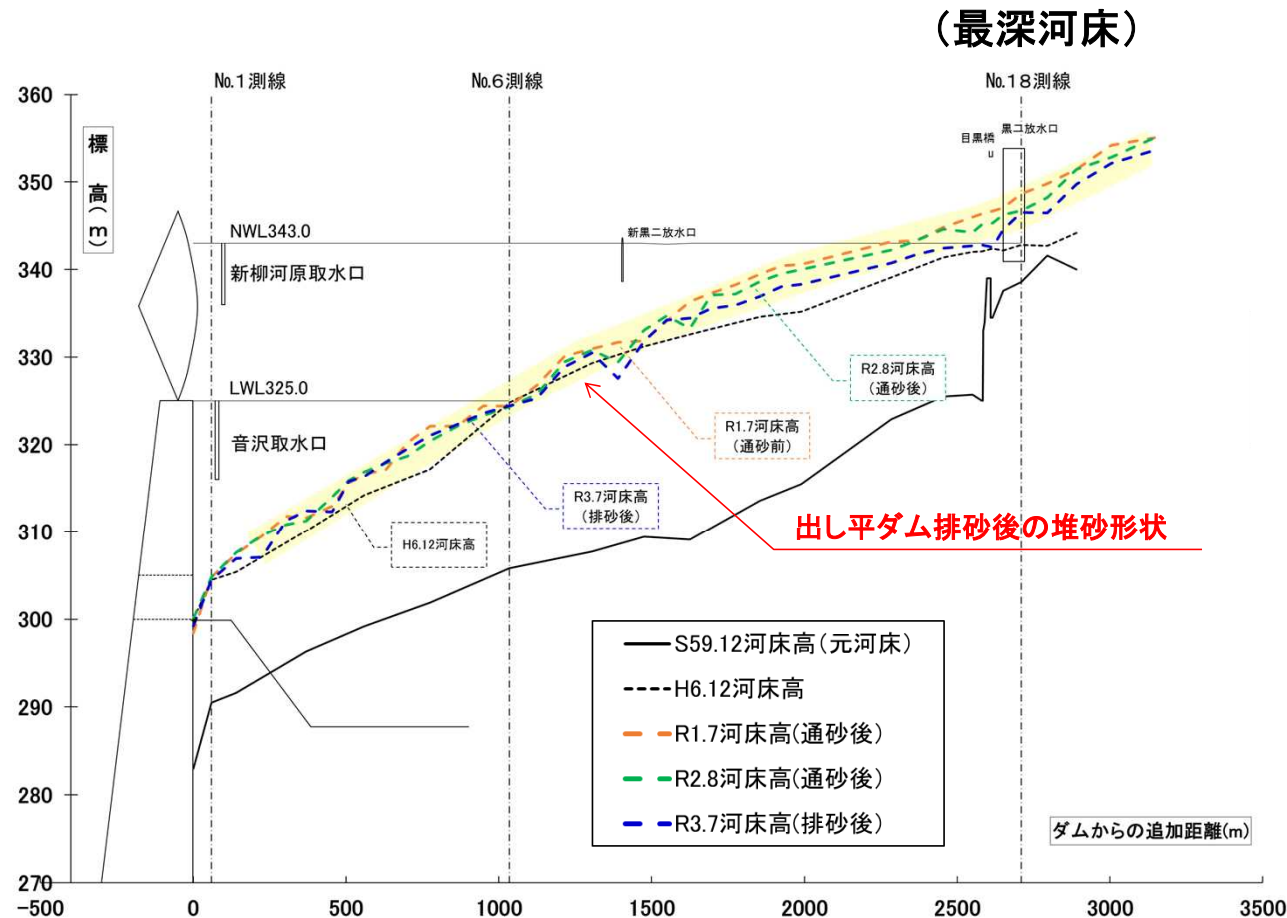
- 令和5年度の連携排砂実施計画については、従来どおりの運用とする。なお、見直しに当たっては関係機関との調整が重要であることから、引き続き関係機関と意見交換をして参りたい。

(2) 『**雪等により5月測量が出来ない場合の土砂量推定**』『**短期集中豪雨の対応**』について

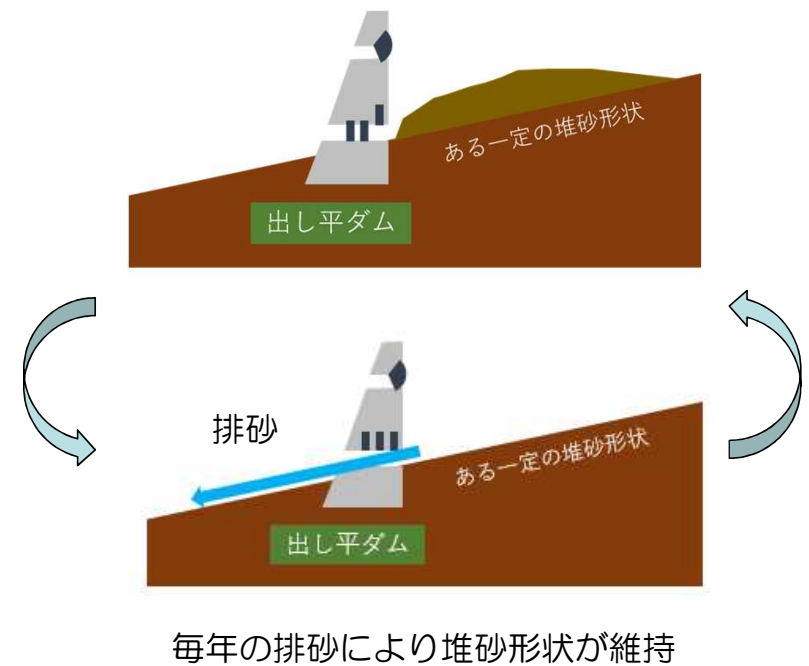
- 測量(土砂堆積状況の観測)方法や気象予測等の技術開発を伴うもので、中長期的な課題となるが、引き続き検討して参りたい。

○連携排砂未実施翌年の目標排砂量設定の考え方について

- 出し平ダムでは、例年排砂後(又は通砂後)に、ある一定の堆砂形状が出現している。



○排砂実施による堆砂形状のイメージ

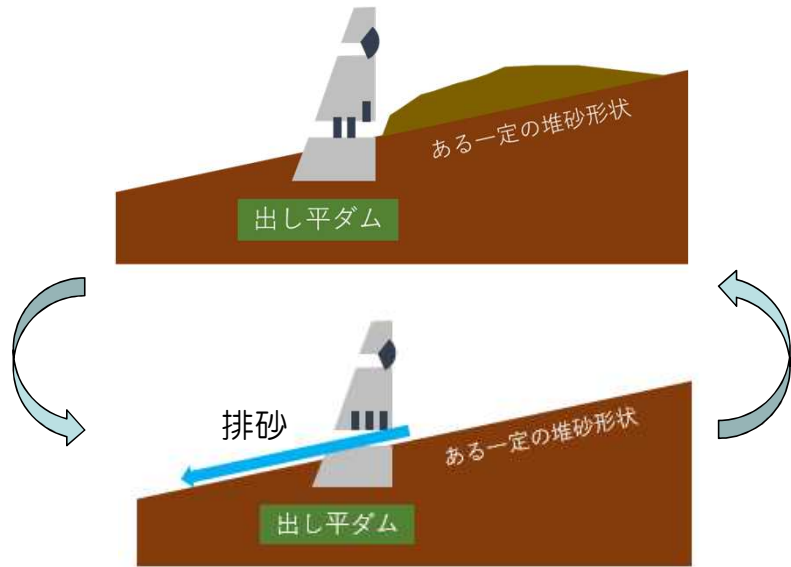


【令和5年度目標排砂量の設定について】

○目標排砂量の考え方と排砂による堆砂形状変化イメージ

《基本的な目標排砂量》
前年排砂実施

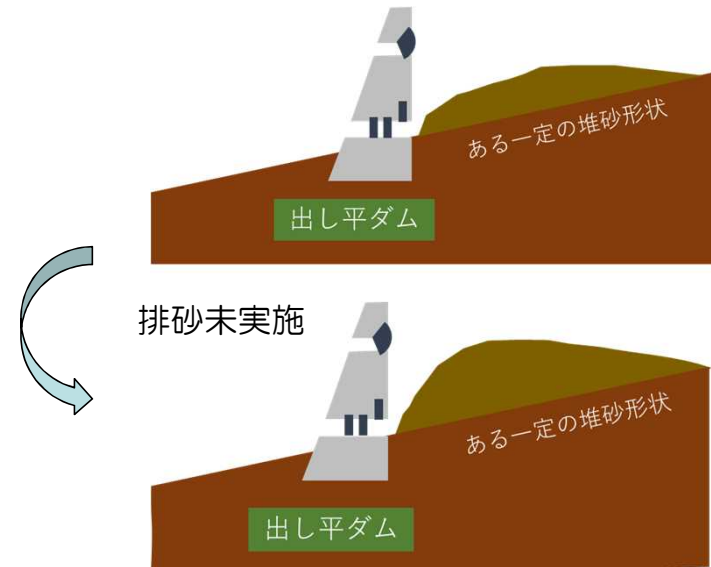
- 排砂を繰り返すことで、堆砂形状が維持される。



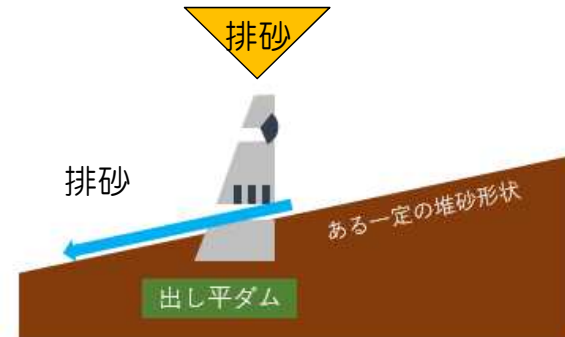
- 【目標排砂量の考え方】
- 前年の排砂後の測量結果（通砂を実施していれば、その年最後の通砂後測量）から、雪解けにより測量が可能となる当該年の5月測量までの間に堆積した土砂量。

《排砂未実施翌年の目標排砂量》
前年排砂未実施

- 排砂未実施により、土砂が堆積していく。



- 【目標排砂量の考え方】
- ある一定の堆砂形状が形成されており、その上に堆積した土砂量のうち、想定される洪水で排砂される土砂量



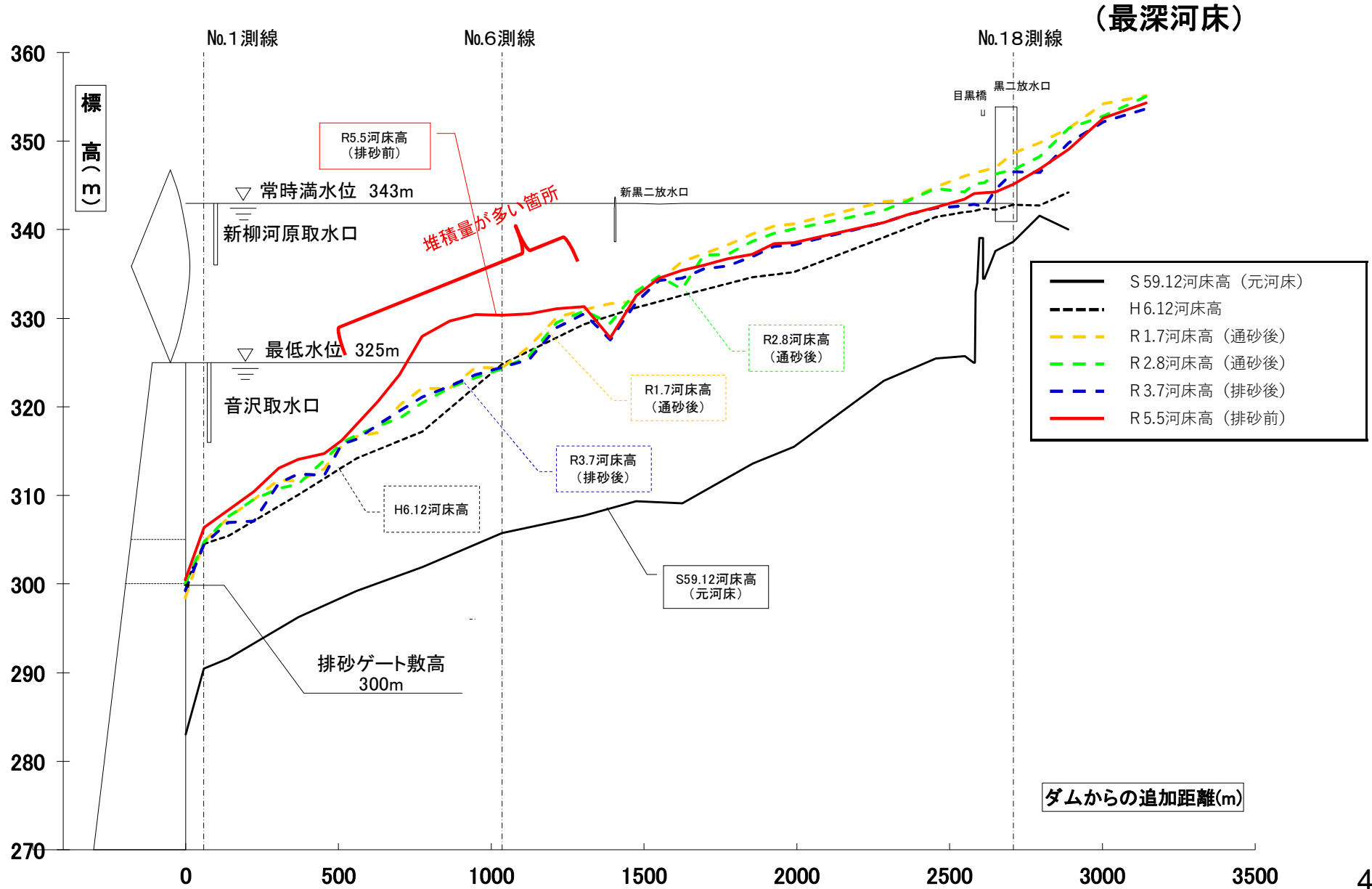
一定の堆砂形状をできるだけ維持していく

令和4年排砂期間を踏まえた今後の検討課題に対する対応状況

【令和5年度目標排砂量の設定について】

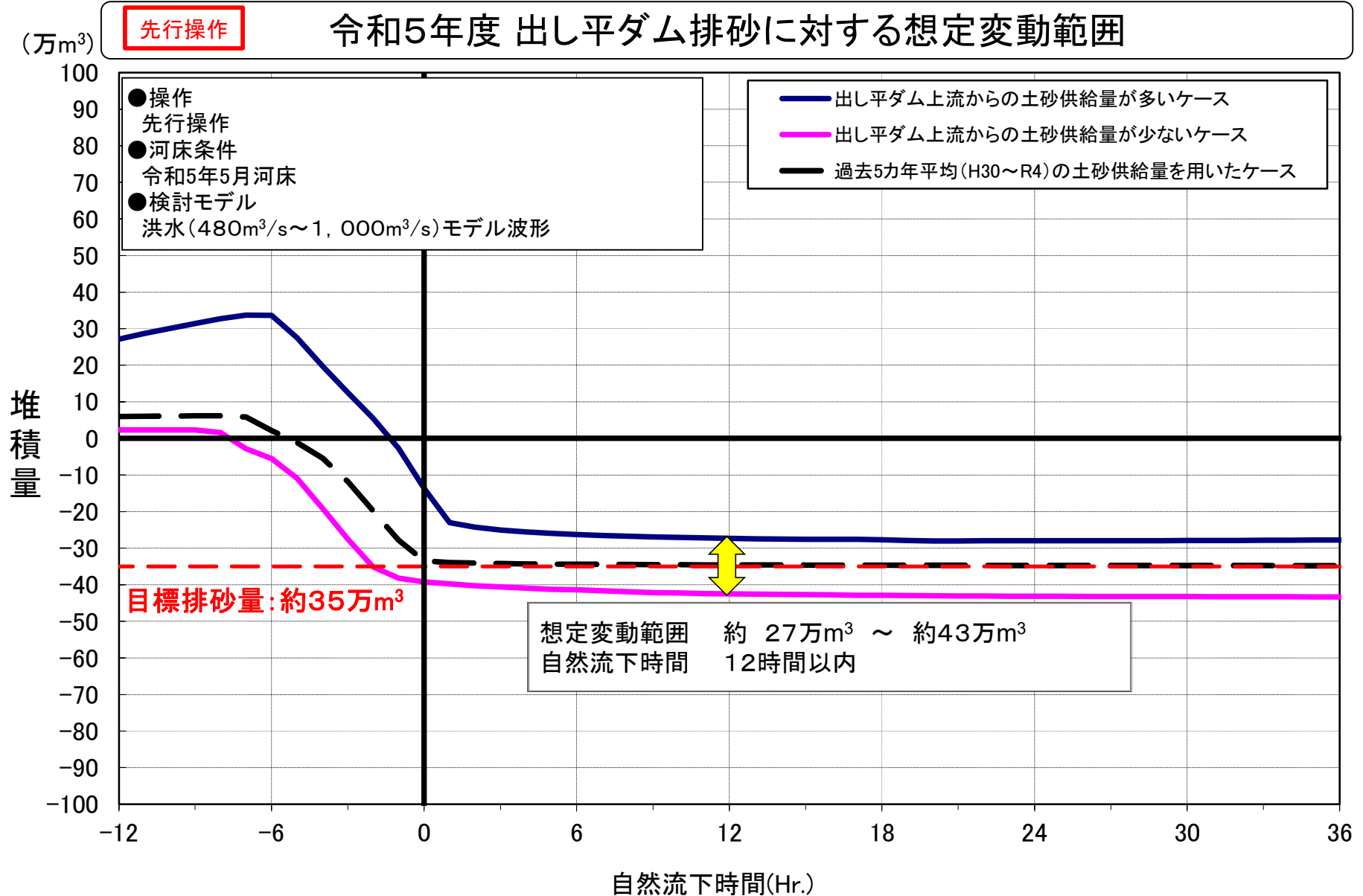
○令和1～3年 排砂もしくは通砂後の河床高とR5. 5河床との比較(最深河床)

R1～R3の排砂後もしくは通砂後の河床高はある一定の堆砂形状と比較し、R5. 5の河床はダム湖中央部付近(ダムから500m～1000m地点)で堆積量が多い(盛り上がっている)形状となっている。



【令和5年度目標排砂量(想定変動範囲)の設定について】

R5.5(現在河床)における排砂シミュレーションの結果を示す。ダム湖中央部付近の堆砂が盛り上がっていること等から、シミュレーション結果によると、排砂作業の早い時間に土砂が排砂される結果となっている。そのため、目標排砂量はシミュレーション結果から得られる『想定される洪水で排砂される約35万 m^3 』と設定する。なお、土砂供給の多少を考慮した想定変動範囲は約27万 m^3 ～約43万 m^3 と設定する。



【令和5年度目標排砂量の設定について】

令和5年度の目標排砂量は、排砂シミュレーションにより、想定される洪水で排砂される土砂量約35万 m^3 とするが、参考として、下図にR3.7(排砂後)、R4.5(排砂前)、R4.9(抑制策後)とR5.5(現在河床)の比較を示す。目標どおりの排砂を実施した場合、ある一定の堆砂形状に近づけることができると思われる。

(最深河床)

